

1930年代、豊島区の池袋駅西側、長崎地域を中心にアトリエ村と呼ばれるほどにアトリエ付き貸家が無数に立ち並びました。数多の芸術家たちが生活と芸術活動の拠点として、この池袋に集いました。池袋という地場に満ちた芸術家たちが生み出す空気を、フランスはパリのモンパルナス地区になぞらえたのは小熊秀雄（1901 - 1940）だとされています。北海道出身の小熊は旭川の新報社に勤めた後、詩人として身を立てることを志し上京、晩年まで豊島区内を転々とし続け生活を送りました。

力強いイデオロギーに基づく詩作が彼の本業として市井では知られるところですが、創作活動は多岐にわたり、童話や漫画原案、批評など文筆業、そして1930年代、詩作と同時期に多くの絵画制作も試みています。向こう意気の強い詩作とは打って変わり、新聞の挿画のような墨汁によるドローイングスケッチや色相豊かな水彩・油彩画は、繊細かつ優しい作風となっているのが特徴です。

相反する印象を持つ詩と絵画。この間を結びつけるいくつかのキーワード、それが街路、カフェ、すれ違う人々などの「都市の風景」です。小熊にとって家と池袋などの繁華街を往来する日々には、歩き、カフェに赴き交友し、かたやただひとりで人や街を観察し、夢想や思索に耽り、そして詩を書き、絵を描くことがありました。彼の姿や振る舞いはまさしく、19世紀末彼の地フランスはパリに現れた遊歩する紳士たちフラヌール（遊歩者）のようであったでしょう。小熊の絵画は、日々の遊歩の記録そのものとなっているのです。

豊島区では小熊の絵画作品を113点所蔵し、これらは美術分野の所蔵作品の中核となっています。本所蔵作品展ではこれらを全展観する11年ぶりの展示となります。



# 大馬鹿者、画家の仲間にもちつて デッサンなるものを描いてみる

池袋モンパルナスに夜が来た  
学生、無頼漢、芸術家が街に  
出る  
彼女のために、神経をつかへ  
あまり太くもなく、細くもない  
ありあはせの神経を——。(2)



私は東京に住んでかなりになる。  
ところが東京市中でカンバスを立てて絵を描いてある  
画家にぶつかったことは全く無いといつてもいい。  
東京市内は絵にならないのだらうか。(4)

生誕120周年  
**小熊秀雄**  
豊島区所蔵作品展  
**遊歩者の  
スケッチ**

関連事業（すべて予定。状況によって人数制限などを行う場合がございます。詳細はホームページをご覧ください。）

- 担当学芸員によるギャラリートーク 2月26日(土) 13時30分～ \*20分程度
- はんこペタペタ 2月13日(日) 14時～16時、3月13日(日) 10時～12時  
小熊の作品をモチーフにしたはんこを押してコースターをつくりましょう！ \*おひとりさま一枚
- こども向け鑑賞ワークシート配布

お問い合わせ

豊島区文化商工部文化デザイン課芸術文化推進グループ

171-0021 東京都豊島区西池袋 2-37-4 としま産業振興プラザ7階

TEL : 03-3980-3177

<https://www.city.toshima.lg.jp/500/museumgroup-collection-exhibition-r03-2.html>

ご来場の際は必ずマスク（もしくはそれに代わるもの）をご着用ください。

新型コロナウイルス感染症対策、ご来場に関する注意事項、諸事情による変更・中止の場合などのお知らせはホームページをご覧ください。

作品：①カフェ(1) 1930年代 水彩・インク、紙/②夕陽の立教大学 1935年 油彩・カンヴァス/③すみれ 1930年代 水彩・インク、紙/④小路1930年代 インク、紙/⑤負けるなカルメン 1930年代 インク、紙/⑥激情(自画像) 1930年代 インク、紙  
挿入文(抜粋)：(1)、(4)「画家・詩人・娘達」/②「池袋モンパルナス」/③「デッサン」 【絵、詩とも小熊秀雄】